

## 施設長ご挨拶

福井県聴覚障がい者センター機関紙「ふくいの風」2号をお届けいたします。

皆様には、ご健勝のことと思います。朝夕めっきり涼しくなりましたが、猛暑から急に「秋」の気配が押し寄せてきました。世界情勢やわが国の情勢にも大きな変化がありましたね。

特に世界が注目をしたことは、やはり「2020年のオリンピック開催地」のニュースでしたでしょうか。多くの支持を受け日本に決まりましたが、私も朝6時まで起きて見ていました。多くの方がその経済効果を述べていましたが、1千兆円を超える負債に喘ぐわが国に、本当の効果が現れるのでしょうか。アテネで開催時には沸きに沸き舞い上がったギリシャは経済が破綻。ロンドンはその試算の3倍の経費がかかり、逆効果に喘いでいるとかいないとか。わが国も世界に貢献する五輪開催とはなるのでしょうか、その後の社会情勢がどうなるのか、不安感を語る方がいることも事実です。また、福島の水処理や避難している20万人を超える方々の問題、竜巻や台風被害等々、深刻な事態も引き継いでいます。東日本大震災もボランティアの数は激減し、未だ手付かずの状態にあるところも多くあります。先の国会解散で廃案になった事項の採択も近くあるのだと思います。今後の社会保障について気になる高齢者問題。65歳以上の高齢者は3,186万人で過去最多、総人口に占める割合は25%と、日本人の4分の1が高齢者となる。65歳以上の高齢者の比率は、今後、2030年には32%、2050年には40%まで上昇すると予想されています。さてさて、どうなる日本！

## (福)福井県聴覚障がい者協会設立及びセンター開所記念祝賀会開催



西川一誠福井県知事

去る4月12日(金)午後4時から、福井市にある「ホテルフジタ福井3階「葵の間」において「福井県聴覚障がい者協会設立及び福井県聴覚障がい者センター開所」祝賀会を開催いたしました。

丸山継男理事長挨拶、協会役・職員の紹介、前田美奈子様と佐藤正秀様、北嶋陽三様3名様へ感謝状を贈呈。引き続き、西川一誠県知事、田村康夫県議会副議長、福井市長代読・有田康弘福井市福祉事務所長よりご祝辞を賜りました。県内外関係団体のご来賓、協会団体代表と役・職員が参加されました。祝電披露の後、五十嵐嘉也県社会福祉協議会専務理事のご発声により乾杯となりました。

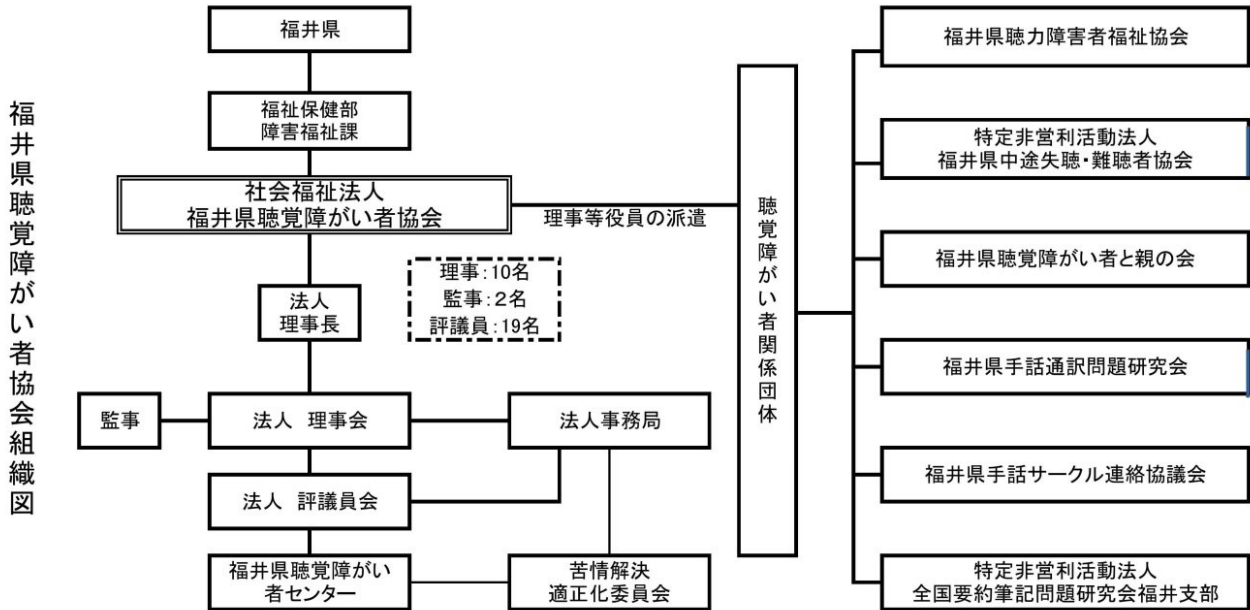
西川知事は『前略～県内の聴覚に障害のある方の情報発信や総合的な相談・支援の拠点としての役割を果たすとともに、障害に対する県民の理解を深めるための役割を期待しております。～後略』と述べられ、役・職員一同、改めて身の引き締まる思いでした。



宴たけなわに話が弾んだ頃、越前市「和太鼓はぐるま」に力強い太鼓で華を添えていただきました。最後に、小山尊県視覚障害者福祉協会会長の万歳三唱をもち無事閉会となりました。長時間、祝賀会を支えていただいた要約筆記奉仕員及び手話通訳士の皆様に厚く御礼申し上げます。

祝賀会に御臨席いただいた御来賓は、西川知事、田村県議会副議長、野田議員、山田議員、細川議員、五十嵐県社協専務理事、品谷県共同募金専務理事、吉村県身障連会長、小山県視障協会会長御夫妻、安澤福井市社協副会長、近藤全聴情提協事務局長、森聴覚障害者情報文化センター施設長、藤森全日本ろうあ連盟理事、大六全通研理事、塩濱全要研理事、影山全通研関西ブロック長、西北信越通会長、石倉富山県聴障協理事長、北野石川県聴障協理事、村上奈良県聴障協理事長、荒木光道園園長、前田美奈子様、佐藤正秀様、その他福井県聴覚障がい者協会役・職員を含め51名のご参加でした。ご出席の皆様！誠にありがとうございました。

## 福井県聴覚障がい者協会関係団体コーナー 1



このコーナーは、福井県聴覚障がい者協会の関係6団体の方々から、(1) 団体の近況報告と今後の抱負及び協会・センターに期待すること、(2) アンケートについて原稿を頂きました。今回から順に掲載させていただきます。

### <福井県ろうあ協会>



丸山理事長

(1) 「福井県聴覚障がい者協会」との名称の混乱を防ぐため、「福井県聴覚障がい者福祉協会」の名称を、58年振りに『福井県ろうあ協会』に戻しました。

20年来の悲願であった「聴覚障害者情報提供施設」の設立がようやく実現でき、今後は「一般社団法人」格の取得を目指します。

(2) アンケート

① 団体名：福井県ろうあ協会

会員数：130名、賛助会員数30名、職員1名（パート）

代表者：会長 丸山継男

② 活動理念：全てのろう者の生活と権利を守るための社会活動とその福祉の向上に必要なあらゆる情報を提供し、ろう文化の水準を高めることをもって、

これを目標とする。

③ 定期活動：ろうあ者福祉大会、新年会&成人祝賀会、敬老会、スポーツの集い、幹部研修会、労働フォーラム、ろう教育を考える集い、高齢部・女性部・青年部活動、ろう者と仲間の集い、全国手話検定試験、機関紙「福井ろう苑」毎月1日発行、理事会、評議員会。

④ 今後の方向性：会員拡大を目指し組織強化を図り、事業・行事を充実する。ろう教育の専門性を確保し、ろう児の集団を確保する意味からも、ろう学校の存続を求めて活動する。手話言語法制定にむけて取り組む。

⑤ 協会・センターに期待すること：聴覚障害者防災対策の確立、障害者差別解消法の施行と合理的配慮にむけた取り組み、意志疎通支援事業実施の徹底にむけた取り組み。

### <NPO法人 福井県中途失聴・難聴者協会>



大嶋理事長

(1) 福井県中途失聴・難聴協会の近況報告と今後の抱負及び協会・センターに期待すること

当協会は、平成16年にNPO法人の知事認証を得て以来早9年が過ぎた。

この間、役員が総入れ替えになる苦難な時期もあったが、平成22年に大嶋理事長が就任して、① 経理・運営の透明化 ② 難聴者の積極的な社会参加推進、③ 入会してよかったと言われる協会の運営、の3つの目標を掲げて活動してきた。

県内の身体障害者手帳交付者のうち聴覚障害者は約3,700人とされており、そのうち中途失聴者・難聴者は2,500人程度と推定される。軽度の難聴者

を含めるとその数は 10 倍位になるのではないかと予想されている。

協会の正会員は 60 歳以上の女性が殆どで、それも年々減少しており、青壮年層の入会は皆無の状態である。その原因は、難聴者のコミュニケーション不足、PR 不足、人材不足などが考えられるので、今後は青壮年層の入会について積極的に働き掛けたいと思う。

県の委託事業である要約筆記者養成・研修や要約筆記者団体派遣事業については、協会の人材不足、能力不足により全要研さんに多大の負担を掛けしてきたが、今年度から県の委託事業、要約筆記者団体派遣事業はセンターに移管されたので、なにとぞよろしくお願いいたします。

## (2) アンケート

- ① 団体名：NPO 法人 福井県中途失聴・難聴者協会  
会員数：正会員 11 名 準会員：1 名 賛助会員：2 名 登録会員：16 名  
代表者名：大嶋 實
- ② 活動理念：中途失聴・難聴者の人権の擁護と社会の理解を促進するとともに、コミュニケーション環境の改善と福祉施策の増進を図ることにより、難聴者の社会参加促進と明るく住みやすい社会の創造に寄与する。
- ③ 定期活動：医療公開講座。要約筆記者派遣。交流会。リクリエーション。会報発行年 4 回。
- ④ 今後の方向性：中途失聴・難聴協会の正会員増（特に青壮年層）。センターと協力して要約筆記者の増員を図る運動。
- ⑤ 協会・センターに期待すること：事務局職員増と会議室、交流会室などの確保。

## <福井県聴覚障がい者と親の会>

- ① 団体名：福井県聴覚障がい者と親の会  
会員数：19 名  
代表者名：岡田 真紀

### ② 活動理念

聴覚障がい児を持つ保護者同士の情報交換及び、子供同士の交流を目的に集まっています。聴覚障害を持つ方と保護者の悩み、問題解決に向けて活動していきたいと考えています。また、新たにお子さんに聴覚障害が見つかった保護者の支援、情報提供を行います。

### ③ 定期活動

月一回日曜日の午前中に福井県社会福祉センターで集まっています（不定期）。子供連れで来られる方も多く、子供同士遊んでいる横で保護者が情報交換を行っています。6 月には会員交流としてボーリング大会を行いました。

### ④ 今後の方向性

今年度新しく発足した会です。障害の軽重、通っている学校、年齢に関係なく会員を募集中です。解散したろうあ者と親の会の会員の皆様の力も借りながら、相談事業を継続しつつ、学生を支援する会と連携して子供たちの教育問題も共に考えていきたいと考えています。

### ⑤ 協会・センターに期待すること

学校の長期休暇中に地域で孤立しがちな聴覚障がい児の居場所づくりのために、デイサービス事業の開設を期待します。また、保護者だけでは解決できない大きな問題が発生したときに、相談に乗っていただきたいです。



河原会長から岡田代表へ

## 全国要約筆記問題研究会 福井支部

- ① 団体名：全国要約筆記問題研究会 福井支部  
会員数：13 名  
代表者名：八木千世

### ② 活動理念

NPO 法人全国要約筆記問題研究会(全要研)は、情報バリアフリー社会の実現を目指し、要約筆記や字幕など様々な支援活動を行っている全国組織団体です。私たちは福井支部として県内での活動を進めています。

聴覚に障がいを持つ方々が情報を得る手段は様々です。人生の途中で失聴や高齢のため聞こ

えにくくなった方などには、手話のほかに文字による情報が必要です。その場の話の内容を文字で通訳する「要約筆記」の技術がその方々のコミュニケーションや社会参加を支援しています。また、いつでもどこでも適切なコミュニケーション手段を自由に選択し利用できる社会環境の実現に向けて関係団体と共に活動していきます。

### ③ 定期活動

支部研修会・要約筆記体験会  
(不定期)

### ④ 今後の方向性

県内における要約筆記の啓蒙・啓発活動を行い、今後の普及と利用者・要約筆記者の増加を図っていきます。

一昨年度より全国統一要約筆記者認定試験が始まり、県でも今年度初めて実施されます。より多くの要約筆記者認定を目指し、支部研修会等でも要約筆記の技術・意識の研鑽を続けていきます。また、便利に使える新しい機材での情報保障や字幕などの活動にも関係団体と協働して取り組んでいきます。

### ⑤ 協会・センターに期待すること

関係団体が一体となったことで、すべての人が当たり前で生きる社会の実現により近づきましたが、要約筆記は手話に比べて社会での認知度は低く環境整備も未熟です。ぜひ県の情報提供施設として各地域にも働きかけていただき、県内どこでも同じように要約筆記が利用できるようなことを期待します。



## <福井県手話サークル連絡協議会>



山田会長

### ① 団体名:福井県手話サークル連絡協議会

加盟サークル数:27 サークル

代表者名:山田幸代

### ② 近況報告

平成 25 年1月に福井県手話サークル連絡協議会(県サ連)のフェイスブックを立ち上げて、随時情報を書き込んでいます。

各サークルにアンケートをさせていただきました。たとえば、県サ連に対しての要望や、規約があるかどうか、特別な行事をしているか、他の団体と交流があるかどうか等、細かい情報をいただきました。

5月 19 日に平成 25 年定期総会を開催しました。その後、参加されたサークルと交流会を開き、各サークルの活動を紹介していただきました。パワーポイントを使って紹介するところもあり、より具体的に分かりました。

9月8日の福井県ろうあ協会主催の敬老会には県サ連が協力し、2サークルが出し物をしていただき、参加者に喜ばれました。

### ③ 今後の抱負

県内の全サークルに県サ連に加盟していただいて、情報交換をしながら各サークルを盛り上げたいです。

### ④ 会・センターに期待すること

他の5団体との連携をとって、聴覚障害者問題を検討できるようにしてほしい。また、手話講座の受講終了後に新しいサークルを立ち上げないで、既存のサークルに関わるように指導してほしい。サークルのあり方にも問題があるのだろうが、通っているろう者が限られている。それに対してのアドバイスがほしいと思っています。



河原会長から丸山理事長へ

## ろうあ者と親の会より寄付金

「社団法人 福井県ろうあ者と親の会」は、6月23日の総会において解散が決議されました。解散にあたり河原洋一郎会長より「社会福祉法人福井県聴覚障がい者協会」丸山継男理事長に残余財産をご寄付いただき目録が贈呈されました。

「ろうあ者と親の会」はその長い歴史に幕を下ろしますが、新たに「福井県聴覚障がい者と親の会」という名称で、ろう学校在籍児の保護者やろう学校からインテグレートした児童の保護者等、聴覚障害児の保護者の会として活動を始めました。

聴覚障がい児と親の会の代表は岡田真紀さんが務められ、ろうあ者と親の会から管理費の一部が贈られました。当社会福祉法人は聴覚障がい児の福祉向上にむけ、「聴覚障がい者と親の会」ならびに「福井県聴覚障害学生を支援する会」と連携し、放課後児童デイサービス等の実現に向け、取り組んでまいります。

## 京都聴覚障害児童デイサービス見学の報告

8月10日(土)、福井県聴覚障害学生を支援する会の役員と福井県聴覚障がい者と親の会代表の計6名が、京都社会福祉会館における標記の事業を見学しました。

京都聴覚障害児放課後等デイサービス「こじ」として今年度開設し、ろう学校8名・難聴学級21名・普通校2名の生徒が、ワンボックスカーでの送迎や自分で地下鉄等の公共交通機関で通っており、火曜～金曜は学校が終わってから18時までと、第1・第3土曜日は10時～16時の「土曜企画」を行い、宿題をしたり創作活動をして楽しく過ごしているそうです。今回は、8月の放課後等デイサービス13回のうち「夏休み聴覚障害児デイサービス」として開催された3回の中の、「家族で木工教室」を見学させていただきました。聴覚障害児の兄弟・姉妹と保護者も参加され、お弁当持参でたのしく交流されていて、大変参考になりました。来年は、福井から実際に聴覚障害児を連れて参加させていただきたいとお願いして帰路につきました。



9月1日(日)の「福井県聴覚障がい者と親の会」において、当法人の吉田正樹理事より見学のビデオと写真による報告が行われ、大勢が熱心に聞き入っていました。

## 初めての情報提供施設協議会出席

新潟県聴覚障がい者情報センターで、第9回全国聴覚障害者情報提供施設大会が6月27(木)～28日(金)に開催され、福井から初めて参加することができました。

まず、2013年度全国聴覚障害者情報提供施設協議会(以下、全聴情協)総会が開催され、石野富志三郎理事長より新たに7施設の新設が見込まれ、全国の情報提供施設で職員が250名を超えたとご挨拶がありました。

総会は正会員数46のうち出席42で定足数を満たし成立し、新施設が紹介されました。議事は平成24年度事業・決算報告、平成25年度事業・予算が承認され、役員改選がありました。引き続いて第9回(通算第21回)全国聴覚障害者情報提供施設大会が開催され、過去最高の74名の参加となりました。

厚生労働省社会援護局障害保険福祉部 企画課 自立支援振興室長の君島淳二氏と、全日本ろうあ連盟理事長の石野富志三郎氏の対談がありました。「障がい者意思疎通支援法」を策定したご本人である君島氏は、視覚障害者施設の指導員が出発点で、「コミュニケーション支援」では不十分だとして、障害のない人に向けて「意思疎通」に関心を持ってもらいたいと策定したそうです。聴覚障害者情報提供施設に人が集まって初めて「たまり場」となる。そこを障害のない人にも「開放」して欲しい、「障害者差別解消法」ができ「障害者権利条約」批准もいよいよ最終段階にきたと語られました。夜は懇親会で、地元新潟の太鼓が披露されました。

2日目はブロック別会議で5ブロックのうち北海道・東北・北陸・甲信の第1ブロックに参加しました。

ブロック活動費 5 万円の補助が廃止されるため、平成 26 年度の全聴情協総会・大会は長崎県開催で前泊が必要となり、研修会を行わずブロック機関紙「北のくにから」発行のみとすることになりました。

全体会に続いて、午後からの第 1 ブロック研修会は大阪ろうあ会館 施設長 清田廣氏の講演会でしたが参加できず、同時刻の平成 24 年度・25 年度入会施設交流会の方に出席しました。三重県・沖縄県・奈良県・堺市・福井県・福島県で情報交換をし大変参考になりました。

聴覚障害者向けソフト制作担当職員研修会は、11 月 6～8 日に福岡県で開催され、CS 障害者放送統一機構「目で聴くテレビ」の「でんしゃ見聞録」や、「地方の手話」、「つつうらうら」の当番も、平成 26 年度からは福井にも回ってくるそうです。

全聴情協総会・大会は平成 27 年山口県、28 年大阪府で開催の予定です。

## センターの機材・機器類が助成交付・寄付により、少し充実！

### ☆中央競馬馬主社会福祉財団助成金の交付決定を受けました

8 月 5 日 (月) に福井県共同募金会より、標記の助成金交付決定ならびに事務手続き等の説明を受けました。字幕入りビデオ作成のための専用ソフト、デスクトップパソコン、27 インチディスプレイ 2 台、ビデオカメラ、三脚購入の費用 877,250 円の内 600,000 円を助成いただきます。

当法人負担分を 9 月下旬に振り込んで発注し、納品後に財団のラベルを貼った写真と実施報告書を提出すると、財団から助成金が振り込まれます。

センター開所から半年を経て、ようやく字幕入りビデオの作成の機材が整うこととなります。

### ☆法人事務所パソコン整備

9 月 4 日 (水) に社会福祉法人事務所として職員業務のためのデスクトップパソコンと 23 インチディスプレイを購入しました。従来使用していたノートパソコンは修理の上、貸出し機器といたしました。

### ☆DVD プレーヤーとノートパソコン等増設

来年度から、手話奉仕員養成事業ならびに手話通訳養成事業の内容が大幅に変更となります。

従来、奉仕員は入門 20 講座と基礎 27 講座の 2 年間、通訳者は基本 20 講座・応用 20 講座・実践 12 講座の 3 年間履修してきましたが、奉仕員は 1 年間 40 講座、通訳者は 2 年間 32 講座 + 30 講座となります。通訳者の講座では、従来から授業で DVD を使用してきましたが、奉仕員の授業でも DVD が必須となり、プレーヤーが不足します。

更に、福井市映像文化センターが廃止され市中央公民館管理となったため機材のみの貸出しを受けられなくなり、従来手話通訳者全国统一試験で使用するカメラとビデオデッキ 2 セットを借用していた試験出題の動画を映し出す機器も不足することから、テレビモニター 2 台と DVD プレーヤー 3 台を購入しました。また、ろうあ者と親の会の社団法人解散を受けて、DVD プレーヤー 1 台を貸出し機器としてご寄付いただきました。

NPO 法人県中途失聴・難聴者協会が赤い羽根共同募金から助成を受け、ノートパソコンとプロジェクター用 100 インチを購入され、要約筆記養成や派遣に活用するため、当センターに備品としてお預かりしています。詳しくはホームページの貸出し機器をご覧ください。

社会福祉法人福井県聴覚障がい者協会 (福井県聴覚障がい者センター) URL=<http://fukui-deaf.jp/>

### 編集後記

いよいよ、福井県聴覚障がい者協会の下半期がスタートします。10 月 2 日 19 時より理事会を開催し、上半期の事業内容と収支決算の一次見直しを行います。当初から課題山積のスタートでしたし、これからの事業展開を見極める上で大きな検証となります。一方、職員は休日も返上し事業運営に頑張ってきました。

平成 30 年の福井国体開催も本決まりとなり、県レベルでも大きな枠組みが出来上がっていることと思います。私たち障がい者関係団体としても、障がい種別を超えた協力体制が組まれていくこととなります。こうした全国レベルの催しを福井県に招致することは、大変なことであるとともに、千載一遇のチャンスにしなければならぬと思います。「47 年に一度」ではなく一人ひとりにとって「千年に一度、偶然訪れるくらいの機会」と捉えることが大切だと思います。(M)